

会 議 議 事 録

1 会議名	令和6年度長岡市市民協働推進審議会
2 開催日時	令和7年2月25日（火曜日） 午前10時から正午まで
3 開催場所	アオーレ長岡西棟3階 市民協働センター 第1・2協働ルーム （ZoomによるWeb会議併用）
4 出席者名	（委員） 板垣委員 大原委員 恩田委員 上村委員 佐竹委員 田中委員 渡辺委員 （事務局） 伊藤市民協働推進部長 宮島市民協働課長 仙海市民協働課長補佐 中村市民協働課市民協働係長 大平市民協働課コミュニティ推進係長 永井市民協働課アオーレ交流係長 星野市民協働課主事 （サポート） 市民協働センタースタッフ
5 欠席者名	大滝委員 小林委員 星野委員
6 議題	(1) 市民活動のいま (2) 市民活動団体の声 (3) 新たな協働のビジョン (4) 令和7年度の会長及び副会長の選出
7 審議結果の概要	議題(1)～(4)について、事務局より説明があり、委員による意見交換が行われた。
8 審議の内容	
	1 開会

	(市民協働推進部長あいさつ) 2 議事
会長	それでは、議題（１）「市民活動の今」について事務局から説明をお願いします。
事務局	(資料１－１～１－１３に基づき説明)
会長	ご質問、ご意見等いかがでしょうか。
委員	細く長く活動に関わる中で、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく感じましたが、新しい世代の人たちや新しい団体が力を持って活躍できているという実感があります。世代が変わりながら長岡の今の規模にちょうど良く活動が残っているように思いますが、日頃は生活困窮者や就労が難しい方からの相談も多くなっており、市民活動を行う余力がないようにも感じます。イベント的な活動は多く開催されていますが、福祉的な活動や声を出しにくい方たちの活動が減っていることが気になります。
委員	昨年度から今年度の変化や違いがあれば、詳しくお聞かせください。
事務局	普段市民活動団体の方と関わっている中では、劇的な変化はあまり感じていません。一方で、若い方が市民活動に興味を示してくれていると感じています。また、コロナ禍から随分時間が経ち、新しい生活様式という言葉が使われなくなってきたように、オンラインでの会議が当たり前になり、市民活動のイベントも影響を受けている印象があります。
委員	イベントは、開催そのものではなく、その先に何があるのかが目的だと思います。イベントを続けることで必ず誰かが疲弊してしまいます。続けることが目的になってしまいがちな中で、市民協働センターや我々にどのようなことができるのかを示していけると良いと思います。
委員	新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、少しずつ進化しているように思います。補助金審査の会議では、同じような申請に見えても必ず学びや経験によって前回より良い内容になっています。審議や新しい申請は、決して無駄ではありません。一気に変わっていくことはおそらく難しいと思いますが、若い方がどんどんと色々な形で提案をしてくれたり、地域が過疎化し自身が年齢を重ねてきた中でも自分たちの力で頑張りたいという方々もいるので、色々な意見と希望等を幅広く聞き、どのように実現できるか考えるチャンスだと思います。
委員	私も色々なところで地域活動などをしていますが、若手の担い手が減少していることを実感しています。NPO 法人を設立して 20 年が経ちますが、若干高齢化が進んでいます。一般社団法人から巣立ったメンバーで創設した法人ですが、その一般社団法人の会員数も減少していると聞いています。また、町内会での活動もしていますが、やはり高齢化を感じます。町内会の加入が任意であることが知られてきて、核家族等の町内会脱退や高齢の方々が役職を担っている現状も見られます。資料では、若い人たちが新しい

	活動をしているとありましたが、既存団体が高齢化し、色々な事情で縮小、痩せ細っていくことが最近の問題点だと思います。
委員	地域コミュニティ活動、市民活動、イベントにおいては、高齢化と資金不足が一番の問題だと思います。長岡市の補助金が無くなり、協賛金を確保しなければいけなくなれば、イベントが段々と衰退する状況になるかもしれません。元気を出して活動していくためには、若い方からどのように参加してもらうかを考えなければならず、やはり、地元定着もひとつの大きな課題となります。長岡が楽しい場所と思われるような活動を続けてもらいたいと思います。
委員	今まで解決できなかった社会課題に対して、フードバンク、エコリサイクル、農業の ICT 化等のソーシャルイノベーションという新しいアプローチの解決策が生まれています。ソーシャルイノベーションの促進のために我々を含めた行政の下支えと支援が今後必要になると思います。 資料 1－11 について、延べ 1,400 万人とは、部屋やアリーナ利用人数等をすべて含めた数字ですか。
事務局	アリーナ、市民交流ホール、協働ルーム、イベントの参加者、総合窓口の利用者等、館内すべての利用者数です。
委員	資料 1－5 について、令和 6 年度の補助金 11 件とは、採択数と申請件数のいずれですか。
事務局	申請件数は、13 件程度です。条件付きの採択だったことを理由に申請を取り下げたものなどがあり、結果 11 件が実現しました。
委員	市民活動がある程度定着し、資金不足が解消されてきているのですか。
事務局	補助金以外の選択肢が増えていると思います。
委員	わかりました。ありがとうございます。
会長	資料 1－2 について、相談内容の上位は平成 24 年から大きく変わっていませんが、情報交換、会場・施設紹介、法人化の相談は件数が落ち着いてきています。また、ボランティア志願の相談も減ってきているようです。 資料 1－5 について、補助金予算が使い切れていないのではないですか。
事務局	半分以上の予算が余っている状態です。
会長	一時期は市としてもかなり手厚く重点的に取り組んでいたと思いますが、コロナ禍での低空飛行が常態化してるのでしょうか。
事務局	そのとおりです。
会長	補助金の申請には、イベント系と貧困や引きこもり支援等の社会課題系の比率のトレンドはありますか。子ども食堂など貧困の課題は永遠になくならず、困っている人が存在すると思いますが、申請が減少しているのは何故だろうと思いました。イベント系の申請が減少しているようであれば、あ

	る意味トレンドだという気もします。
事務局	貧困などの社会課題対策の内容は少なくなってきました。一方で、土や自然について考えるような環境問題をテーマにした申請が増加傾向です。
会長	ニーズが一番目に見える部分なので、申請内容はもう少し詳しく分析したほうが良いと思います。マラソンに 100 万円といった大きな予算規模の事業が多く出てきた時代もありましたが、今はそのような規模感の申請がなく事業が小粒になった印象があります。コロナ禍で会議がオンラインで済むようになるなどコストがかからなくなった可能性もあると感じました。資料 1－10、1－13 のとおり、新しいムーブメントも起き、すごく盛り上がっていて良いと思いました。一時期、コスプレイベントが盛り上がっていたようにも思います。
事務局	今週末もコスプレイベントが開催されました。
会長	市民協働の網にはかからないかもしれませんが、広い意味での市民活動全体の盛り上がり具合を審議会では紹介してほしいと思います。相談があったものや補助金を交付したもの以外の把握は難しいと思いますが、全体的に活動が低調なのか、分野を絞るとすごく活性化しているのかという部分も見ていきたいと思いました。また、町内会脱退の話がありましたが、私の町内会では、班長や町内会長の飲み会がほぼすべて廃止されました。子どもが少なく高齢化していく中で、新しい世の中のあり方が今まさに模索されている時代なのかもしれません。悲観的に昔と今を比べるのではなく、次の時代に向けて今の若者が若者なりの価値観でどうつながって長岡を盛り上げていくかということに視点をずらさなくてはいけないと思いました。また、市民協働という言葉が賞味期限なのではないかという気がしています。当時は、行政と市民が一緒に取り組むという意味で協働という言葉が生まれましたが、今では市民協働という基盤ができ定着しました。次の時代は、委員の発言のとおり、ソーシャルイノベーションが重要な鍵になると感じます。補助金の募集についても、ソーシャルイノベーションといったチャレンジをしてみたい人に響くようなチラシにすることも必要だと思いました。
事務局	本日欠席の委員から議題 1 に関するコメントをいただいたので代読します。「観光の部分で、地域の人やその地域での産物などを把握して、観光業を活性化できないかと思っています。それらが生かせれば、人の生きがいや産業を残していく道筋が少しでもできるのではないかと。例えば、人材や産業バンクとして、情報を把握し、観光業のニーズに繋げていく、個々でなくとも、地域それぞれにそのような人を配置するなど。資料を見たところ、新たな次世代のプレイヤーのイベントなどもあるようですが、現時点で既にいる人たち、自分では出てこれない人の発掘などもできたら良いのかなと思います。」ということでした。
会長	すごく大事な視点だと思います。山形県の銀山温泉や岐阜の白川郷などは、インバウンドという非常に暴力的な風が吹き込んでいます。行き過ぎると大変ですが、とても経済効果があります。山形県の尾花沢の大石田駅から少し離れた山の中にある銀山温泉に外国人が殺到していることを考える

	と、山古志に人が殺到しても全然おかしくありません。戦略的な観光と単純に言葉を狭める必要はなく、関係人口、交流人口など人の対流がある場所は元気だと思います。人の流れは、過疎化や高齢化の中でも持続する地域としての大きな力になります。人の動きや対流をいかに促進するかという観点では、観光も重要な技術になると感じます。 それでは、議題（２）「アンケート結果」について事務局から説明をお願いします。
事務局	（資料２－１～２－２に基づき説明）
会長	ご質問、ご意見等いかがでしょうか。
委員	マッチングリストは、よくまとめられているので、多くの人の元に届くと色々なつながりができると思います。各団体の SDGs のアイコンの趣旨を教えてください。
事務局	一つ目は、現行の協働ビジョンのテーマのひとつが市民活動と SDGs であるため、SDGs を長岡市全体で進めていくという考えのもと、自分たちの活動が SDGs のどのジャンルで社会貢献になっているのかを再認識してもらうことです。二つ目は、マッチングリストを利用する企業の方などに SDGs という視点で活動内容を認識してもらうことです。
委員	どの SDGs に関連する活動をしているのかは、見られているものですか。
協働センター	ご覧になってる方は少ないです。
委員	地域で活動するためにどのような団体があるかを調べる際、どの団体がどの SDGs に貢献しているのかはあまり重要ではないと思います。運営側が把握しておくのはすごく大事である一方、マッチングリストに写真 1 枚分のスペースを使い掲載するのは少しもったいない感じもします。文字を小さくして説明文を掲載している団体もあるので、ページ構成は検討の余地があると思いました。
会長	当時は、時代的に SDGs の記載をしなくてはいけない流れもありました。
委員	私も所属団体の産業イノベーションの分野で SDGs に取り組んでいます。これからの時代においては、非常に大事なことでありと理解していますが、取り組むために何をしたら良いのか悩むことが多々あります。アンケート結果では、団体の平均年齢の約 7 割が 60 代 70 代以上であり、SDGs や団体の若返りに取り組まないといけないとわかっているにもかかわらず、どのように取り組めば良いのかという悩みがあると思います。レベルを下げて、もう少し取りかかりやすいような形にすると、質問やアドバイスを求める方も増えてくると思います。
委員	とても多くの団体がありますね。アンケート結果では、団体の課題として、資金面よりもスタッフ不足や高齢化、広報集客が挙げられています。団体それぞれで活動していると周りが見えなかったり、他の団体がどのようなことをしているのかわからないという方もいると思います。市民協働セ

	ンターでは、「一緒に活動したら化学反応が起きるのではないか」「悩みによって団体同士をつなげる」などのマッチングの役割を担っていただきたいです。各団体ごとに頑張っていると思いますが、集約できる部分を考え、市民の方々の活動が充実するようなアドバイスというところに踏み込んでいただくと充実した市民活動につながるのではないかと思います。
委員	商工会議所が SDGs 宣言をしました。DX 化でも同様のことが言えますが、中小企業では、取り組み方がわからないことに加えて、メリットや売り上げになるかをまず初めに考えるようです。将来的に自社を変えていかなければ生き残っていけないのはわかっているけど、投資など目先のことに目が行ってしまっている気がします。アメリカ大統領の発言では、SDGs が本当に続いていくのかわからないという印象も受けました。また、協働マッチングリストには、多く存在するはずの地域の文化芸能団体が 1、2 団体しか載っておらず、地域の伝統を後世に残したいという強い気持ちがあっても取り組む方がいないのが現状のようです。発表する機会がなく、地域のお祭りでも人が集まらないという話もあります。今後、そのような活動の支援を行うこともひとつの考えだと思います。長岡地域の発展のために、そのようなことも将来的に考えていかなければだんだんと活動がなくなってしまうと思います。
委員	社会的な問題にもなっていますが、私が経営する会社では、原材料費や人件費の高騰によってリソースの確保がとても難しくなっています。市民活動団体でも同様の問題は起きていますか。
事務局	建物などの固定経費がある団体が少ないため、そのような声は届いていません。協働センターではいかがですか。
協働センター	特に、ガソリン代の高騰で「今まで支援していた先に行きにくくなった」「人が集めにくくなった」という声はあります。細かい部分では、原材料費の高騰が難しい問題です。また、郵送費が値上がりしていますが、昨今はオンラインやネットプリント、LINE 等の活用により、逆にチラシが安価に作成できたり、郵送代が削減されたことで、広報費が抑えられイベントや企画自体がしやすくなったと聞いています。ただし、交通費、物価高の影響は間違いなくあると思います。
委員	人件費は、上がっていますか。
協働センター	最低賃金が上がり、パートの雇用は減っています。また、市民団体だけでなく、自治会等で事務員に給料を払っている場合も、最低賃金に合わせて価格を改定する話が出てきていますが、協働センターの登録団体は、雇用のある団体の方が少ないので、直接的な影響があるのは一部の団体に限られていると思います。
会長	アンケート結果では、「活動分野」の 3 分の 2 は文化芸術、スポーツ、地域づくりが占めています。「アンケートの依頼先」は、多くがコミセン、市民協働センター、公民館です。「活動頻度」は週 1 ～ 4 回。「構成員」は 20 人以下が全体の 4 分の 3。「平均年齢」は 60 代、70 代が全体の 3 分の 2。小規模な高齢者のグループで、多くはボランティア、手弁当で活動している

	ようです。「資金源」はほぼ会費という、大体そのような感じです。「抱えている課題」は多様で色々な問題がありますが、約半分の団体が人の問題について悩んでいます。「必要な支援の内容」も多様化していますが、必要なしの回答も非常に多いので、それなりに成り立っているようです。広報の手伝い、場所の確保が必要な支援の主たる部分になっています。「情報発信の方法」については、チラシの作成費も安くなりました。最近では、PDF をホームページに載せれば良いという雰囲気ですが、X、LINE、Facebook、Instagram など SNS がまだまだ使われておらず広報の余地はかなりあります。運営している主体が 60 代 70 代なので仕方ないですが、広報戦略は支援の効果が出やすい余地がある気がします。「新型コロナウイルス感染症の影響」は特になしが全体の 4 分の 1 ですが、活動の停滞と会員の減少などの影響があったと思います。また、「協働はしたことがない」と回答したのが全体の 4 分の 3 で、余地があると見ることができます。「5 年後の活動状況」については、拡大せず現状で良いと思っているようですが、現状維持が大変なのが問題です。「今後取り組んでみたいこと」は、構成員の獲得、組織の若返りなど、やはり人の持続性が最大の課題です。傾向が見えてきました。 協働マッチングリストの SDGs の記載については、もっともな指摘です。目立つ部分なので、団体の活動内容が目に入ってくる方が見やすいかもしれません。SDGs が一般化され過ぎて正直ピンとこないのも、どのような活動をしている団体なのか一瞬でわかる工夫があるのもっと見やすいかもしれません。 SDGs の取り組みが中小企業の売り上げにつながるのかと言われると、正直つながらないとしか言えず辛い部分があります。
委員	協働マッチングリストの SDGs のアイコンについて、団体によっては全く SDGs に絡んでない団体もあると思います。そのような団体が変な捉えられ方をされないかという懸念もあります。一方で、「SDGs を全部満たしてるからこの団体は良い」という見方にもなりかねないので、なおさら工夫が必要だと思いました。 また、アンケートの定量的な分析に関しては、パワーポイントでまとめてありわかりやすいですが、自由記述については具体的にどのような分析をし、傾向や必要な情報について検討しましたか。
事務局	資料に挙げたもの以外にも色々なご意見がありました。自由記述の傾向や対策は、具体的な検討がない状態です。個別の事業名や団体名が記載されているケースもあるので、フェイストゥフェイスで取り組むのが良いと捉えています。
委員	補助金の申請が減少し、今後どのようなニーズを導き出していくのかという話もありましたが、数字だけでは見えない部分も確実にあると思います。また、内容や分野がそれぞれ全然違うように見えても、共通点があったり目指しているものや志が同じということもあります。たくさんの人が書いてくださった回答でもあります。検討してみると今まで気づけなかったことにも気づけるのではないかと思います。
会長	自由記述は、色々な記載があるので整理して分かりやすく提示するのは大変です。今は、テキストマイニングやチャット GPT などのツールもあるの

	で、もう少し見やすくしたうえで、次のニーズや団体が目指しているものを抽出すると良いと思います。
委員	人の問題は、多くの団体が抱える課題です。広報、集客ができないのも人が足りないからではないかと思いました。協働マッチングリストには、私が所属する団体のうち3つの団体が記載されていません。同様に特に若い世代の人たちは掲載の希望はせず、直接 SNS でつながっていることもあるのではないかと考えると、このアンケート結果で市民協働のまち長岡を評価するのはすごく難しいことだと思います。今後、中学校の部活動地域移行が進み、若い世代の人たちが市民活動のくぐりに来る可能性には期待はしています。そのためには、SNS を上手に使っていく必要があると思います。 市民活動は、活動を継続させることが目的ではないので、社会課題が解決されていなくても、継続できない状況になれば無理に続けなくて良いと思います。後ろ向きな考えかもしれませんが、それに代わる何かはきっとどこかで生まれると思うので、困っている団体にお金を投入してまで継続させなくても良いのではないかと個人的には思っています。
会長	困っている団体への直接支援は、仕組みとして考えにくいので、そこまですることは無いと思います。私もその部分は委員と感覚が近く、ある意味健全に淘汰されていく方が自然で正しいと思います。社会的ニーズや価値観が変わっていく中で、当時盛り上がっていた NPO がだんだん弱っていくのは、ある意味当たり前のことです。一方で、存続すること自体が目的の団体もあると思います。文化伝統系の活動などは、続けていくこと自体が目的化することもあり得るので、色々なパターンで社会課題の変化に適応しつつ健全に淘汰してもらう、あるいはアップデートしてもらうためのサポートは絶対していかなくてはならず、伝統的、文化的なものを何とか地域で存続させたいという活動を継続するために必要な支援については、当然考えていくべきだと思います。柔軟な頭で柔軟に見なくてははいけないと思いました。
委員	未来を創る市民活動応援補助金について、支払い方法は精算払いと概算払いのいずれですか。
事務局	選択できます。基本は精算払いですが、活動原資を持たない団体へは概算払いをしています。
委員	中小企業の小規模事業者にも当てはまりますが、少人数の団体や資金がない団体は、補助金が精算払いの場合、借入をしないと補助金が使えないことがあります。その辺をもう少し PR すると申請件数も増えるのではないかと思います。
会長	私が審査会の委員を退任して何年も経ちますが、当時も後払いはきつuitと感じていました。一方で、全額先払いとした場合もイベントが開催されなかったときの問題がありバランスが難しいため、臨機応変に対応していくという話をした気がします。 協働マッチングリストは、ホームページにも掲載されているとのことですが、見つけれられません。ネットで検索可能ですか。

事務局	ネットで検索できます。
協働センター	PDF でも掲載しています。ホームページでは、協働マッチングリストの画像ではなく、団体検索のサービスとして各団体のページごとに検索できるようになっています。
会長	冊子が主体で Web ページは付属として PDF あるいは団体ごとの内容載せているという認識で良いですか。
協働センター	経緯は、最初にホームページの中で団体の紹介をするサービスを開始し、その中で、「デジタル時代とはいえホームページからの検索では興味があるものしか見ないため、思わぬものが目に飛び込んでくるのは紙だろう」と考え、Web サイトに掲載している団体の中から承認を得たものを何年後かに紙媒体として作成するようになりました。Web サイトに載っている団体の方が数が多いかもしれません。
会長	今の説明でよくわかりましたが、冊子の良さもあり、パラパラと見ることができます。委員の話でもありましたが、ぱっと目に入ってくる SDGs のマークは何を目的にしているのかという素朴な疑問もそのとおりだと思います。パラパラと見た時に、この団体は自分の団体と近いというようなことがわかる見せ方をしたいのが一点です。一方で、デジタルの時代の中で、Web サイトの検索で引っかかってほしいというケースもある気がします。予算の配分次第ですが、デジタルにも力を入れていくと良いと思います。スタッフのリソースをどのくらい割けるかという問題も出てくると思いますが、委員の話のように登録するまでもないと思っている団体の発掘や先ほどのコスプレイベントなども含めて、色々な情報をどんどん Web サイトに上げ、検索するとダイレクトに引っかかるような方法を検討していただく方が、現代的な気がしました。 市民活動には、表彰制度はありますか。
事務局	ありません。
会長	審査会や推薦により頑張っている団体へ報奨金を出すのはいかがですか。やはり褒められると「頑張ってきてよかったね」と嬉しいと思います。頑張っていて続けてきたことや活動に動員してきた人の数などを認めるようなものを考えても良いと思いました。
委員	私が理事を務める組織では、今は形が変わり別のものになりましたが、当時地域活性化大賞というものがありました。市民活動団体の活動のプレゼンを審査し、優勝賞金などもありました。それを励みとして次の活動につなげてもらうことが目的だったので、そのような制度があるのはとても良いことだと思います。
会長	褒められるのは嬉しいですね。そのようなものを考えても良いのではないのでしょうか。予算が使い切れていないという議論というよりは、予算の中でその効果をどう最大化するか頭を柔らかくして考えると良いと思います。市の予算を割いていただき、市民活動もそれなりに色々な団体が頑張っている中で、「もっと活発になるには」「もっと新しいプレイヤーがどんどん

	出てくるには」というような生きたお金にするために知恵を出していければ良いと思いました。 それでは、議題（３）「新たな協働のビジョン」について事務局から説明をお願いします。
事務局	（資料３－１～３－３に基づき説明）
会長	新旧のビジョンを見比べると今年度までのビジョンと来年度以降のビジョンが比較しやすいと思います。非常に重要なものになりますので、忌憚のないご意見ををお願いします。
委員	次期ビジョンでは、SDGs の記載が全くなくなりましたね。
事務局	SDGs については、一定の取り組みが終わったという認識です。
会長	皆さん共通の考えだと思います。
委員	新旧ビジョンの違いについて教えてください。
事務局	大きな違いは、右側の１から７までの項目です。ビジョンの役割は市民協働条例をわかりやすく皆さんにお伝えするものであると考え、市民の皆様、いわゆるプレイヤーの皆様が一番関係が深いと思われる７項目を条例から抜粋し大きく記載しています。また、「つながりがはぐくむ豊かな暮らし」の主題は変更ありませんが、人口減少の中でも若い方から出てきてほしいという意味で、「誰もがチャレンジできるまち」を副題にしました。さらに、左側の円のルーレットについて、項目自体は変更ありませんが、「主体的にチャレンジできるまち」を一番見やすい頂点に持ってきています。以上３点が主な変更点です。
委員	コンセプト的な情報がすごく多いというのが率直な感想です。左側の図には「主体的にチャレンジできるまち」を含めて５つの項目があり、右側には７つの項目があります。一見リンクしているのかと思いましたが、全く異なるコンセプトの情報です。ぱっと見た時に情報が多い印象なので、直感的にもう少しわかりやすく簡素にしても良いと思いました。
会長	左側の図は、「主体的にチャレンジできるまち」から始まって５項目あり、これは旧ビジョンとほぼ同様です。円の周りにはプレイヤーが６項目に分かれていて、右側の図には７項目とややこしくなっていますが、苦労して入れ込んだのは伝わります。そして、それぞれの項目が綺麗に対応するわけではないということです。右側の７項目は、全部大事なことです、一体何なのかがわからなくなっています。右側に７つの見出しをつけるとどうなるのでしょうか。左側の図は、５つのテーマに対してプレイヤーが６セクターあると理解できます。よりわかりやすく皆さんの中にストンと入るにはどうしたら良いのでしょうか。
委員	スローガンが多く、何が中心なのかわからない画になっています。「住みやすいまち」「暮らしやすいまち」「働きやすいまち」などは、どこでも共通の話題です。左側の図の「笑顔いきいき協働のまち長岡」と主題の「つなが

会長	りをはぐぐむ豊かな暮らし」がつながらない感じもするので、右側の7項目を少し短縮して3、4項目くらいにまとめるとインパクトが出るという感じがしました。また、プレイヤーとして「グループ」「学校」「行政」などと記載すると、漏れたところはどうなるのかとなるので削除しても良い気がします。
	左側の図に「笑顔いきいき協働のまち長岡」と急に出てくるのも少し気になります。旧ビジョンは、主題と図の文言が同じでしたが、今回は別の言葉が入っています。主題をそのまま左側の図に入れると良い気がします。また、左側の5項目について、旧ビジョンは人や経済といった見出しが付いていました。全部読むのは大変なので、見出しをつけて大体がこの5項目に収まるとわかるようにしたほうが良いと思いました。旧ビジョン同様に色分けをし、色ごとに話ができて良いかもしれません。事前の会長レクでは、次の5年間はチャレンジしていこうと提案しました。左側の5つの項目を5年ごとに時代に合わせてルーレットのように回し、一番必要とされることを掲げていくようにすると良いと思います。中越地震から20年が経ち一つの時代が転換し、次のプレイヤーがムーブメントやアクションを起こしてほしいという意味で次のテーマは「チャレンジ」ではないかという私の思いを左側の図に反映してもらいました。どれも大事な項目ですが、5年間ごとの重点的な取り組みを明確にメッセージにすると良いと思いました。右側は、確かに3つくらいにまとめたいとは思いますが、一緒にするのは難しいです。文章が重いので、見出しだけでも良いのかもしれませんが、また、アルビレックスなど具体的な話は、ビジョンではなく別の資料に記載すると良いのではないのでしょうか。ビジョンには見出し・柱を記載し、詳しい説明文章もどちらかのみにしたほうがすっきりすると思います。市民協働条例は憲法のようなものであり、よりどころなので、ビジョンの初めに市民協働条例を抜粋としているのは良いです。1番に「将来にわたり市民の更なる幸せな生活の実現」2番に「それぞれがまちづくりの主役」とあります。役所や誰かではなく「みんなが自発的に」ということが書かれています。3番に「特性の違いを生かした多様性」とあり、お互いの足りない部分を、得意を持ち寄って補完し合えば綺麗な丸になるというこの3つの文章は、本当に座長の顔が思い浮かぶもので、良い文章だと思います。悩んだときに常にここに立ち戻るのがすごく大事なことでと思います。ぜひ載せてほしいと思います。
委員	ビジョンは、誰が見ますか。
事務局	市民活動団体、市民の皆様に向けたものです。
委員	見る人にとってわかりやすいレイアウトにしてうまく図式化できると良いと思いました。
委員	委員の意見に同感します。左側の図の各項目はそこまで変わらないと思いますが、優先順位が変わっていくので、見せ方の工夫は必要です。色もあったほうが見やすいと思います。右側の図には、5年後も大事にしていくべきものが書かれていると思いますが、説明文について基本的な考え方を統一したほうが良いと思いました。見出しだけにして見やすくするのは市民

	向けには大事ですが、運営側としてはどうでしょうか。例えば、①の「コミュニティセンターを核として」という文章に引っかかりました。私の認識では、コミュニティセンターは連携していくもので、核だとすると事務局と感覚が違ったのだなと思いました。⑦の「市民活動団体の声を市の施策に生かしていきます」については、市民活動は社会課題を敏感に感じ取るセンサーの役割を果たしているのです、声にならなくても動向を見極めることが必要だと思います。③の「市民が気軽に参加できるまちづくり等の講座を開催します」は、具体的な講座の企画がありますか。ある場合はどのような形で考えていますか。また、④の「新潟アルビレックス BB 選手による」は、人材育成の活動を選手のみが行うということですか。
会長	「新潟アルビレックス BB 選手による」は書かないほうが良いと思います。本当に子どもたちを育成できるのかということになってしまいます。
委員	選手以外の人たちも応援すると思います。
事務局	色々な資料を抜粋したため、雑な部分がありました。講座には、既存のまちの先生や中央公民館の講座、市民協働センターの講座を皆さんに PR し活用していくイメージです。アルビレックス BB については、活動の主体を限定するべきではないと思うので、表現方法を修正または削除したいと思います。
委員	講座のイメージがわかりました。既存のまちの先生や中央公民館の講座は、参加者が特定されていることも多いと思うので、④の「子どもたちの育成」を考えるのであれば、小中高専門学校などで行う気軽に参加できるまちづくり講座の企画等があると良いと思いました。
会長	ビジョンとプランが混ざっているのです、ビジョンにふさわしい内容に抽象化した方が良いのではないのでしょうか。プランとして講座の開催やアルビレックス BB 選手の記載があっても良いと思いますが、ビジョンとは違うと思います。もう一度文章をよく読み直した方が良い気がします。左側の図は、前から同じような形なので、体裁を整理すれば良いですが、右側は今回かなり新しい書きぶりになっています。ビジョンの柱という理解かと思います。個人、家庭、地域といった①の「コミュニティ活動の推進」が基盤になります。今の時代、各地域の地縁型コミュニティだけでなく、サークルも含めたテーマ型のコミュニティが山ほどあるので、そのようなものも含めたニュアンスの文章にすると良いと思います。②の「市民交流の推進」がぼやっとしています。市民交流というよりは左側の図にある多様な主体の交流と連携の推進という意味合いになるのでしょうか。③の「まちづくりを担う人材の育成」については、講座を開くというだけでは弱い気がします。育成を子どもたちに限定するのか、例えば次世代とするのか検討の余地がある気がします。⑤「情報の共有」もぼやっとしているので、情報の共有、発信に加えてもうひとつくらい何か入れた方が良いと思います。SNS の活用には改良・改善の余地が山ほどあります。情報発信・共有の範囲が市内なのか、外に打って出るのかニュアンスが見えづらいです。⑥「活動資源の確保」については、人、物、金、場所などは当然必要になります。⑦「市政への意見の反映」も大事なことなので、委員の意見を踏まえて少し調整してもらおうと

	良いと思います。7項目のうち、どれが必要でどれが不要とは言えないです。今日結論が出ないので、後日意見があれば事務局に届けていただき、言葉を調整して確定ということでしょうか。
委員	協働が目指すビジョンとして左側の図の「職場の働きやすさ」などが入ってくるのはどうなのかと思いました。他部署のことを書いても良いのだろうと思いますが、本来の協働ビジョンの基本理念の中には入っていない気がします。「地域の安全安心」については、町内会や警察など色々な方が担うと思いますが、市民協働とどう関係するのかということになりかねないので、もう少し精査が必要です。協働が目指すビジョンなので、そのように思いました。
会長	地場産業振興と記載されていると産業振興課の所管という印象になります。地場産業を巻き込んだ地域の課題解決とすれば、委員の話とつながる気がします。企業と一緒にないと解決できない問題は山ほどあるので、課題解決として働きやすさを挙げるのは唐突です。地場産業だとわかりづらいので、産業界も巻き込んだ地域の課題解決というようなニュアンスでいかがですか。働きやすさの意味合いがお母さんたちの支援ということなら良いと思いますが、会社の中の働きやすさと言われると他部署の所管になってしまいます。
委員	右側の見出しと説明文は、説明文の内容を実現すると見出しの内容が達成されるという構成になっています。④「子どもたちの育成」については、アルビレックス BB に関する事業を行い、結果子どもたちの育成が達成されるという見え方なので、見出しのみにしても良いと思います。具体的な取り組み事例は、プランの紹介という形の見せ方にした方が良いと思いました。③「まちづくりを担う人材の育成」も少し違和感があります。まちづくり等の講座によって興味を持つ方は、増えるかもしれませんが、担う人材の育成とは別だと思えます。まちづくりを担いたいという前に、自分が生活するうえで感じる社会問題に対してやってみたいという情熱があってまちづくり活動が始まると思うので、それを育成するのは少し違和感があります。過去にまちづくりの分野で色々な取り組みをしていた方々の話を聞くことは重要で、それに感化されることはあると思いますが、育成という言葉には違和感があるので修正いただいたほうが良いと思います。
会長	育成・支援・発掘としてはいかがですか。育成する場合も支援する場合も発掘してくる場合もあり得るということです。担うという言葉は少し重たいので、まちづくり人材と言い切っても良いかもしれません。まちづくり人材の育成・支援・発掘とすれば違和感はないと思います。
委員	ニュアンスが違いますね。
会長	育成できる可能性もありますが、一番大きい可能性は発掘という気がします。
委員	業務外かもしれないですが、元造形大生の地域おこし協力隊であれば、デザインの見せ方や工夫に違いがあるのではないかと思います。

会長	デザインの勉強をされた方は全然違いますね。
委員	右側の⑤「情報の共有」について、情報の共有というとセキュリティの問題があるような印象を受けるので、一方通行であれば情報の発信とするのが良いかもしれません。
会長	全部まとめて収集・共有・発信としても良いと思います。収集も実際してますよね。ビジョンについて、意見の受付期間はいつまでですか。
事務局	3月7日までをお願いします。
会長	7日までに意見をいただき、会長と事務局で調整して確定として良いでしょうか。責任持って仕上げさせていただきます。それでは、議題（4）「令和7年度の会長および副会長選出について」について事務局から説明をお願いします。
事務局	（議題4について説明）
会長	推薦はありますか。後任の方がいないと足抜けしづらい業界ですが、来年度と言わず次の任期も踏まえて良い人材をぜひ推薦いただきたいと思います。それでは、事務局で人選を進めてください。 続いて、委員長1名、副委員長1名を選任します。委員による互選となりますが、立候補や推薦はありますか。
委員	会長と副委員長から来年もぜひ引き続き務めていただきたいと思います。 （拍手）
会長	異論はありませんか。長くやってきたので、そろそろ若い人という気持ちはずっともっていますが、なかなか足抜けさせてもらえません。では、会長、副会長ともに現会長、副会長が引き続き務めるという形でよろしいでしょうか。 （拍手）
会長	来年度以降も皆様のご協力をお願いします。以上、予定されていた議題の審議が終了しました。活発な議論をありがとうございました。進行を事務局にお返しする前に、オブザーバーで来ていただいている市民協働ネットワークの皆さんから一言ずつお話いただけると嬉しいです。 （市民協働ネットワークより一言ずつコメント）
会長	貴重なご意見ありがとうございました。
事務局	本日は、長時間の審議を大変ありがとうございました。以上をもちまして、令和6年度長岡市市民協働推進審議会を閉会します。
（出席委員の署名欄） 省略	

9 会議資料

- ・資料 1－1～1－1 3 市民活動のいま
- ・資料 2－1～2－2 市民活動団体の声
- ・資料 3－1～3－2 新たな協働のビジョン